

2026年 ニッケグループ代表 年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

2026年の幕開けにあたり、皆さんにおかれましては気持ちを新たに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。年末年始も業務に従事された皆さん、大変ご苦労様でした。ここに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。



私たちを取り巻く環境に目を向けると、国内経済は緩やかな回復基調にあるものの、人口減少と高齢化による深刻な労働力不足、物価高がもたらす実質賃金の目減りと消費意欲の減退など、依然として景気回復の実感は乏しい状況です。世界経済においても不透明感が残り、米国の関税政策をはじめ各国で保護主義の動きが強まっています。ウクライナ侵攻や中東情勢不安など、地政学リスクはますます高まっており、サプライチェーンの見直しはもはや必須となっています。さらに、中国経済の回復も依然として見通せず、世界市場全体に不安定さが残っています。

さて、2025年度は、RN130ビジョンの最終フェーズである第3次中期経営計画の2年目でした。この不確実な環境下でも『前年よりも成長』することを目指して各事業を推進しました。事業ごとの好不調の波はありますが、互いに補完し合うことで強靭な企業グループの構築が進んでいます。皆さんのチャレンジと成果に心より感謝を申し上げます。特に産業機材事業本部では、不織布事業のM&Aによる拡大と収益改善が進み、第3の柱へと成長しつつあります。FA・機材事業も昨年10月にカコテクノスが仲間入りし、ニッケ機械製作所との協業を期待しています。また、人とみらい開発事業本部では、八重洲通フィルテラスの竣工など、保有不動産の再開発による付加価値向上も進みました。

次に、2026年度は、創立130周年という大きな節目であり、RN130ビジョンの総仕上げを行う極めて重要な年です。事業の状況は様々であり、経営環境の不確実性は増すばかりですが、変化にしなやかに対応し各施策を実行することで、RN130第3次中期経営計画の目標である売上高1,300億円・営業利益130億円を必ず達成する決意です。

そして、2027年度からは、次の10年を目指すCF140ビジョンがスタートします。少子高齢化が加速する中、人財獲得はますます困難になります。ニッケグループが成長するためには、『人が集まる』、『人に選ばれる』企業グループでなければなりません。そのために、グループ及び各事業のパーソナリティを軸に、多様性を活かしながら各事業の魅力を一段と高めていくことが重要です。

今年は60年に一度の丙午（ひのえうま）の年になります。火のエネルギーを宿した午（うま）は、情熱と力強さ、そして前進の象徴です。私たちもこの一年、情熱と誇りを持って困難を乗り越え、果敢にチャレンジしていきましょう。

一方で、すべての事業活動の前提となるのは『健康と安全』です。どんな目標よりも、健康であること、怪我をしないこと、させないことが最優先です。引き続き健康経営と安全管理を推進し、労働災害ゼロを目指して取り組んでください。

最後になりますが、2026年が当社グループのさらなる発展、そして皆さんと、皆さんのご家族にとって幸せな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げまして、新年祝賀式の挨拶とさせていただきます。

ニッケグループ代表
ニッケ 代表取締役社長 長岡 豊